

都道府県名

福 井 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	福井市清明小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	2	2	2	0	14	20
児童数	91	75	84	66	78	80	0	474	

研究の概要

1．研究主題

学ぶ楽しさ、分かる喜び、心ふれあう学校づくり

2．研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1年・2年・3年（算数）

TT指導

算数の授業をTTで行いT1が全体の授業を進め、T2が特別に支援を必要とする児童の指導を行う。

4年生（算数）

1学期・・・TT指導による一斉指導。

2・3学期・・・学年全体を均等に3分割して少人数指導をする。

5年生・6年生（算数）

1学期・・・学級を均等に2分割して少人数指導。

2・3学期・・・単元の学習内容を考えながら、習熟度別グループによる指導を進める。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ（主題） 「学ぶ楽しさ、分かる喜び、心ふれあう学校づくり」</p> <p>研究の見通し 教科書を使って進める日々の授業づくりを大事にしながら、少人数指導やTT指導などの学習システムを取り入れ、運用の方法や指導の効果について研究する。</p> <p>研究の内容・方法 理解や習熟度に応じた少人数指導の研究 個に応じたTT指導の工夫 算数科における発展的な学習のための補充教材の開発 ・九九習得カード ・発展教材用練習ドリル 児童生徒の学力の評価と指導の改善の研究 教科担任制の導入</p>
--------	---

平成	<p>テーマ（主題） 「学ぶ楽しさ、分かる喜び、心ふれあう学校づくり」</p>
----	---

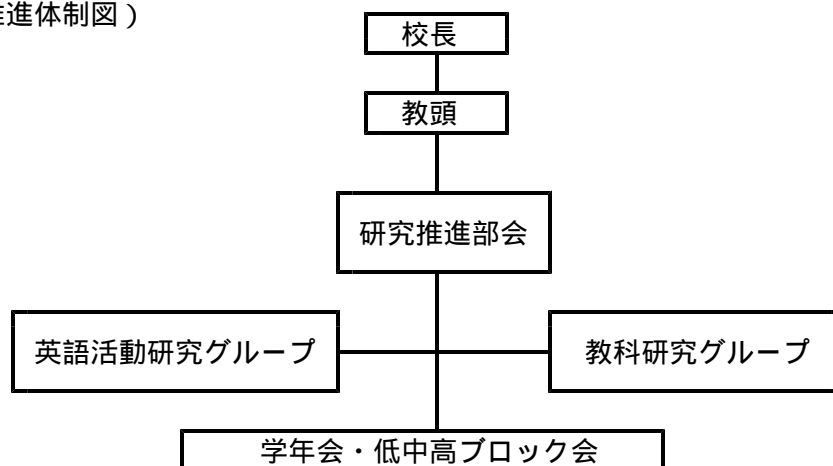
16
年
度

研究の見通し
前年度の取り組みを継続・深化させながら、教科書を使って進める日々の授業づくり、
少人数指導やTT指導など学習システムの改善・効果について研究する。

研究の内容・方法
理解や習熟度に応じた少人数指導の研究
個に応じたTT指導の工夫
算数科における発展的な学習のための補充教材の開発
・九九習得カード
・発展教材用練習ドリル
児童生徒の学力の評価と指導方法の改善
教科担任制の導入

(3) 研究推進体制

(研究推進体制図)



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 数値面からの評価

算数単元末テスト(市販)の平均点

表 1	1 学期	2 学期
4 年 A 組	80.5	83.0
4 年 B 組	81.5	87.7
5 年 A 組	85.8	84.3
5 年 B 組	86.6	85.9
6 年 A 組	80.9	85.4
6 年 B 組	82.6	90.0

表1は、1, 2学期の4年2学級、5年2学級、6年2学級(学級名は仮称)の算数のテストの平均点である。4年生は、少人数学級を取り入れた2学期に飛躍的に平均点が伸びている。5年生は、1, 2学期とも平均点が85点前後という高い水準で推移している。6年生は、平均点が80点からスタートして5点以上の伸びを示している。Bの学級は2学期の平均点が90点である。学力向上に向けての本校の取り組みの成果ととらえられる。

基礎計算力の調査

基礎計算力の調査 (正答率100%未満の子)				
学年	6月	10月	11月	1月
1年	*	58%	*	
2年	22%	22%	11%	
3年	52%	42%	34%	
4年	36%	29%	15%	
5年	27%	15%	28%	
6年	10%	18%	13%	

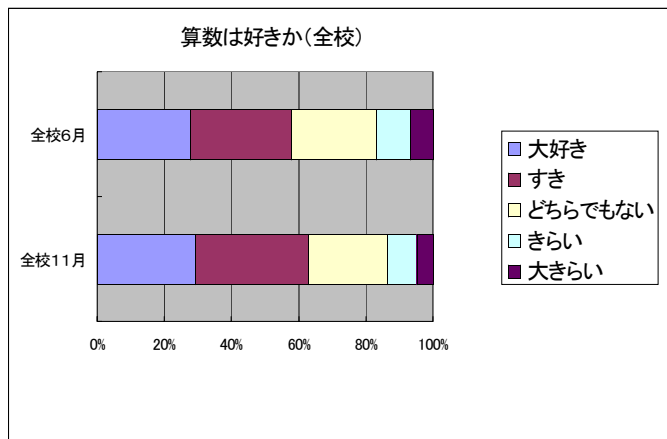
朝の学習の時間等を利用して、計算力を高めるためのミニノートやプリントを行う。特に、計算の基礎となる九九は100パーセントの習得を目指す。基礎計算力として年間3回、3年以上は九九、1・2年はたし算の到達度調査を行う。

6月と10月の調査では、10月の方が定着率が低くなったため、練習期間を設け再度11月に調査した。一人あたりの誤答の数は減っているが、まだ、1問ミスの子がかなり見られる。基礎的な計算力を100パーセント習得させる難しさを感じる。

、ともに難易度は同程度とする。設定通過率を事前に同程度としておく。

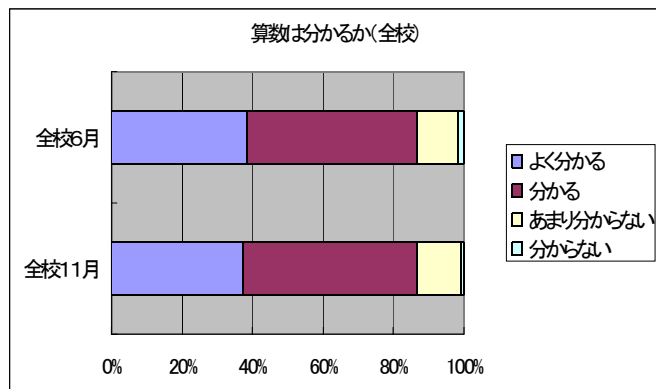
(2) アンケートを中心とした情意面からの評価

児童を対象としたアンケート結果 図1 算数は好きか(全校児童)



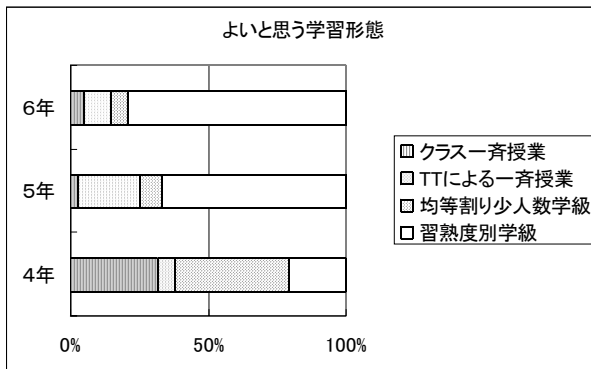
「算数は好きか」のアンケートでは、6月に比べ11月の時点では、「大すき・すき」とする子の割合が少し高くなってきている。学年別では、高学年は変化はあまり見られないが低学年での伸びが顕著である。

図2 算数は分かるか(全校児童)



算数は分かるかのアンケートでは、「よく分かる」がやや減り、「分かる」がやや増えている。全体的に大きな変化は見られないが、分からないとする子が減っている点が評価できる。

図3 よいと思う学習形態



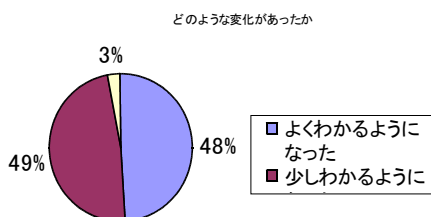
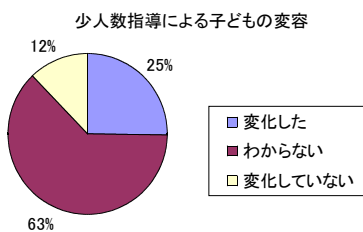
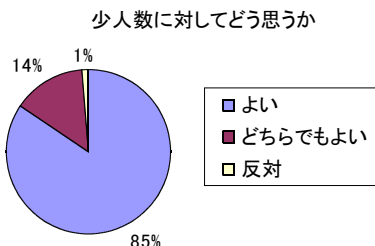
4年生は均等割りの少人数指導を望む子が多い。5年6年は圧倒的に習熟度別学級での指導を望む子が多い。中学年時にTT指導を受けていた5年生では、TT指導を望む子の割合もかなり高かった。

資料1 (子どもたちの声) 少人数指導・習熟度別指導は、どこがいいのか

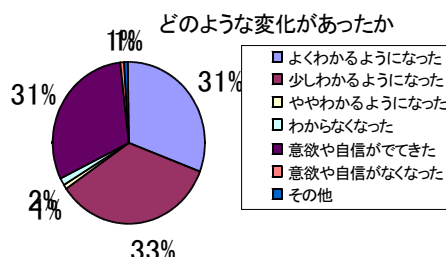
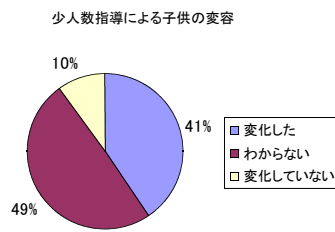
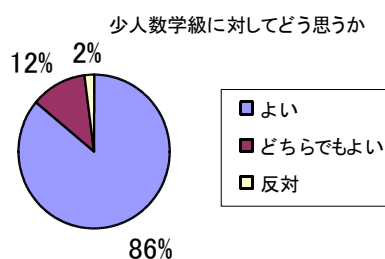
- ・コース別は、静かで集中できる。算数が分かるようになってきた。
- ・自分にあったコースをせんたくできるから。
- ・コース別にするとうからないところがすぐに聞けるから。
- ・コース別だと自分にあった問題ができるから。
- ・おくれる人がいないし、人が多くなくて分かりやすいからです。

少人数指導についての保護者へのアンケート結果

6月実施



1月実施

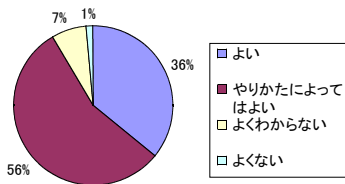


6月には、習熟度別指導に対して「やりかたによってはよい」とする保護者が多かったが、1月では、「よい」とする意見が圧倒的に多かった。

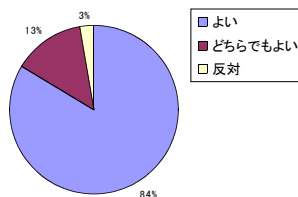
少人数に対しては、6月・1月ともに「賛成」の保護者が多く、「今後も続けてもらいたい」という回答が多く寄せられた。

6月に比べて1月の調査では、少人数・習熟度を行うことで子供に変容が見られた割合が高くなっている。

習熟度別指導についてどう思うか



習熟度別指導についてどう思うか



どのような変化が見られたかに対しては、「分かるようになった」「意欲や自信がでてきた」など肯定的な意見が多かった。

児童・保護者のアンケート結果より、

均等割りによる少人数指導・習熟度別指導は、

- ・児童にとっては、発表の機会や教師とのかわりが増え、意欲的に学習に取り組める。
- ・一斉指導の時には、理解が早い児童に遠慮しがちだった子が、基本をゆっくり学習できるため、習熟度別指導を望んでいる。
- ・両コースともに、児童の理解度やつまずきがとらえやすく、より個人差に応じた指導が可能になり、学習意欲・学習内容の理解が進んでいる。

という点で効果的である。

TTによる指導は、少人数・習熟度別指導ほど顕著に表れていないが、一斉指導より望む子が多い点で、子どもたちにとって安心して学習に望める形態だと考えられる。指導者としては、T1が指導に集中し、T2が理解の不十分な児童に個別に対応することで、指導の効率化を図ることができた。

(3) 算数科における発展的な学習のための補充教材の開発

九九カードの活用

資料2

……九九の表……
かける数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	8	16	24	32	40	48	56	64	72
9	9	18	27	36	45	54	63	72	81

かけられる数

九九の定着を目差し、左のような九九カードを持たせ、いつでも使ってよいことにした。カードを使うことで、苦手な九九を覚え、算数のテストの成績が上がった子が見られた。

発展教材用練習ドリル「すすむ君」

資料3



主に、円周率を用いて自力で計算できるように、次の内容について発展学習を行った。

- ・3年 4桁±4桁の加減 3桁×2桁の筆算
- ・4年 3桁×3桁の筆算 小数の表し方と加減(小数第2位)
- ・5年 小数の乗除(小数第2位まで) 台形の面積

電卓マークのついた教科書の問題も自力で計算できるようになっている。

(4) 指導法の改善

日々の算数の授業では、次の事項を大事にし、全校をあげて指導を徹底することで、基礎基本の定着を目指した。

授業中は鉛筆を使わせる

下敷きを使う習慣を付けさせる

赤鉛筆で丸をつける習慣を付けさせる

教科書を中心にして授業を進める

算数の教科書の問題はどのコースの子にも必ず解かせる

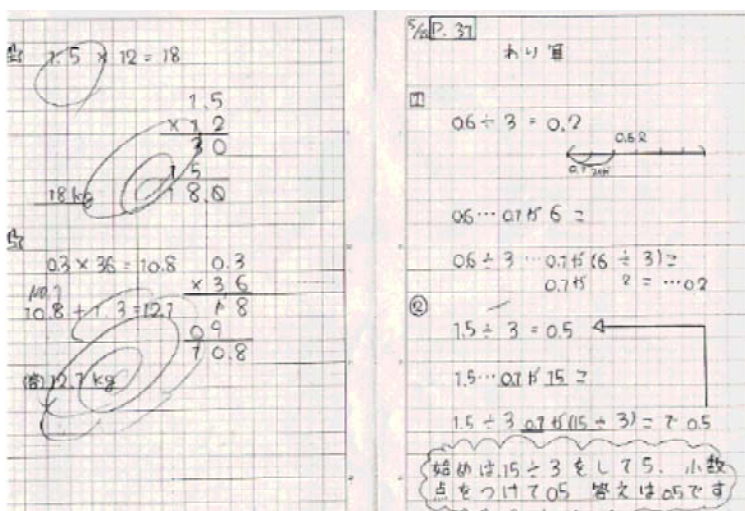
線を引くときにはミニ定規を使わせる

ノートには日付を入れ、濃くしっかりとした字で書かせる

ノートはゆったりと使わせる

補助計算は消さずにしっかりと書かせる

子供のノート



ノートをゆったり使い定規を使って線を引く。補助計算をしっかりと書くことで、計算ミスが少なくなり、学力の伸びが見られた。

2. 今後の課題

習熟度別学習（主に発展的なコース）で、学習内容にどのような差を持たせたらよいか。発展的な学習の内容について研究する。

学習内容に応じた効果的な学習形態を工夫する。

TT指導におけるT1・T2の効果的な役割分担について研究する。

指導者によって取り組み方の違いが見られるので、職員間の共通理解を進めることと学校全体での一貫した指導を図る。

高学年においても、九九カードを違和感なく使える雰囲気づくりをする。

発展問題「すすむ君」の問題点を修正し、更に充実させる。

教科担任制については人員・持ち時数の関係で制限があるが、できる範囲で進める。

学力等把握のための学校としての取組

計算力調査

子どもたちの学力をはかる一方法として、基礎計算力調査を行っている。

単元末（形成）テスト

算数科の市販テストの点数の変化を記録し、学力の変化を知るものさしの一つとする。

到達度テスト

年度末には国語と算数の CRT テストを全学年行い学力定着の目安とする。前年度の結果を基に、指導を強化する学習領域をさぐる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業、（全教員の授業公開）

【日時】11月18日（火）10:40 ~ 14:35

HP作成

清明小学校ホームページ 「学力向上」のページ
保護者会での参観授業

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無